

流出油をバイオで処理する



タンカー等から油が流出する事故は環境に大きな影響を与えるので、素早く回収されます。しかし、回収した油は、現状ではすべて焼却処理されています。そこで、環境に配慮した新しい方法として、全国各地で生産されている「バーク堆肥」によって油をバイオ分解処理する技術が開発されました。CO₂排出を削減する新しい時代の流出油処理方法をご紹介します。

油流出事故など海上防災に従事する方々に、また一般の環境業務・学習に取り組む方にも最適のシンポジウムです。

日 時：平成21年11月24日（火） 14:00-16:30

会 場：ホテル東日本盛岡 JR 盛岡駅 徒歩7分 （参加無料）

<プログラム>

- 14:00 **開 会**
- 14:05 **基調講演「海の微生物と石油の意外な関係」**
広島大学生物生産学部 准教授 長沼 毅
- 14:45 **講演「油流出事故への対応」**
(独)海上災害防止センター 防災部部長代理 萩原 貴浩
(15:25-15:35 休憩)
- 15:35 **講演「流出油のバイオ処理・バーク堆肥を使う新技術」**
大分県産業科学技術センター 主任研究員 斉藤 雅樹
実装アドバイザー 関 正明
- 16:20 **JST 研究開発成果実装支援プログラムの紹介**
(独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター
企画運営室長 篠崎 資志
- 16:30 **終 了**

< 講師紹介 >

長沼 毅 (広島大学生物生産学部 准教授)

昭和 36 年神奈川県生まれ。筑波大学大学院博士課程修了。海洋科学技術センター研究員、カリフォルニア大学客員研究員を経て平成 6 年より現職。海底など極限環境の生物学が専門。マスコミ登場・講演も多く、わかりやすい語り口に定評がある。著書に『深海生物学への招待』『深層水「湧昇」、海を耕す!』『宇宙がよるこぶ生命論』など。

萩原 貴浩 (独)海上災害防止センター 防災部部長代理)

昭和 37 年兵庫県生まれ。近畿大学卒。海上保安大学校特修課修了。海上保安庁巡視船艇勤務を経て海上保安学校教官、本庁海上防災課勤務。平成 7 年より同センター主任教官、防災部長代理。米国テキサス A & M 大学で武者修行。全国で発生する油・ケミカル流出事故、船舶火災などの現場第一線で指揮を執る。

斉藤 雅樹 (大分県産業科学技術センター 主任研究員)

昭和 41 年徳島県生まれ。東京大学卒。工学博士。政府機関勤務を経て平成 9 年より大分県産業科学技術センター勤務、平成 15 年より現職。杉の樹皮を原料とする油吸着材を実用化し全国に普及。その後、パーク堆肥微生物によるバイオ処理技術を開発し特許を取得した。

篠崎 資志 (独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター企画運営室長)

昭和 37 年千葉県生まれ。東京大学卒。科学技術庁に入庁し、原子力開発、海洋開発、情報科学技術、先端医学等の研究開発政策の企画立案を担当し、平成 19 年より現職。社会問題解決のための技術の研究、成果の実装等を進めていくためのプロジェクト企画、運営、評価方法の開発を行っている。

主 催 : 大分県産業科学技術センター

後 援 : (独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター

海上保安庁、第二管区海上保安本部、(独)海上災害防止センター、海守
環境省、NPO 日本パーク堆肥協会



会場 : ホテル東日本 盛岡

- 盛岡市大通 3 丁目 3 番 18 号
 - ・ JR 「盛岡駅」 徒歩 7 分
 - ・ 東北道 盛岡 IC より車で 15 分
- ホテル駐車場の 3 時間無料券を差し上げます。
当日、会場受付でお申し出ください。

事前に FAX か E メール等でお申込みください。
(先着 100 名、参加無料)

申込み・問合せ :
大分県産業科学技術センター 斉藤・大森
TEL: 097-596-7100
FAX: 097-596-7110
Email: m-saito@oita-ri.go.jp
<http://aburabio.hp.infoseek.co.jp/>

以下をご記入の上、FAX : 097-596-7110 までお送りください。(Eメール・お電話でも結構です)

大分県産業科学技術センター 斉藤 宛
シンポジウム (H21.11.24 (火))
「流出油をバイオで処理する」
に参加を申し込みます。

機関名 : _____

氏 名 : _____ 参加人数 : _____ 名

住 所 : _____

TEL : _____